



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年1月30日

上場会社名 日本ライフライン株式会社 上場取引所 東  
コード番号 7575 URL <https://www.jll.co.jp>  
代表者 （役職名） 代表取締役社長CEO （氏名） 鈴木 啓介  
問合せ先責任者 （役職名） 取締役常務執行役員CFO （氏名） 江川 毅芳 TEL 03-6711-5200  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期第3四半期	44,405	3.7	9,824	△0.8	9,608	△3.4	6,821	△3.5
2025年3月期第3四半期	42,811	11.8	9,906	17.2	9,944	15.8	7,071	14.5

（注）包括利益 2026年3月期第3四半期 6,868百万円（△10.0％） 2025年3月期第3四半期 7,632百万円（17.9％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	97.25	97.24
2025年3月期第3四半期	99.37	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期第3四半期	76,058	63,196	83.0
2025年3月期	75,123	59,914	79.8

（参考）自己資本 2026年3月期第3四半期 63,166百万円 2025年3月期 59,914百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	53.00	53.00
2026年3月期	—	0.00	—		
2026年3月期（予想）				54.00	54.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	59,300	4.8	12,900	4.7	13,000	5.4	9,350	0.3	133.30

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	71,300,000株	2025年3月期	75,758,470株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	1,144,401株	2025年3月期	5,661,667株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	70,138,200株	2025年3月期3Q	71,155,223株

（注）当社は、役員報酬BIP信託を導入しており、当該信託が所有する当社株式は、期末自己株式数および期中平均株式数の算定上控除する自己株式に含めています。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況.....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況.....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
3. その他 .....	9
生産、受注及び販売の状況 .....	9

## 1. 経営成績等の概況

## (1) 当四半期の経営成績の概況

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間末現在において当社グループが判断したものです。

## (経営環境について)

当社グループは主に国内の総合病院等の顧客向けに心臓領域を中心とする医療機器事業を展開しています。日本の医療需要は、人口の高齢化に伴い増加しており、今後もそのトレンドは継続することが予想されています。一方、医療供給はひっ迫しており、各種医療サービスの持続可能性が懸念されています。国は、現行の医療システムが医療従事者の慢性的な長時間労働に依存している状況を改善するため、「医師の働き方改革」を推進しています。

このような状況において、医療機器業界で厳しい競争に勝ち残るには、単に治療効果の高い製品を提供するだけでなく、持続可能な医療を実現するための様々な課題の解決にも貢献していく必要があります。当社グループは、メーカーと商社の2つの機能を併せ持つ強みを活かし、柔軟かつ強靱なプロダクト・ポートフォリオを構築することで、これに取り組んでいます。

## (事業の状況について)

当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高は前年同期比3.7%増加、売上総利益は2.3%増加、営業利益は0.8%減少、親会社株主に帰属する四半期純利益は3.5%減少となりました。保険償還価格の改定や、心房細動の新しい治療法であるパルス・フィールド・アブレーション（PFA）の急速な普及など、事業環境が大きく変化する中で、中期経営計画（2024年3月期から2028年3月期までの5年間）の重点施策である「競争力ある製品の継続的導入」と「新領域の拡大」を着実に推進しました。その結果、売上高から営業利益まではおおむね期初予想どおりの進捗となりましたが、市場競争力が低下した一部製品の取扱い終了に関連する費用（営業外費用）や本社移転に関連する費用（特別損失）を計上したことから、親会社株主に帰属する四半期純利益は減益となり、期初の想定をやや下回りました。

販売面では、中核事業のEP/アブレーションおよび心血管関連は、コア製品群の成長により、それぞれ前年同期比2.6%増収、3.8%増収と堅調に推移しました。EP/アブレーションでは、症例数の増加を背景に心腔内除細動カテーテルや大腿静脈用止血デバイスが増収に寄与しました。心血管関連でも市場拡大に伴いFrozen Elephant Trunk（FET）が伸長しました。また、成長事業の新領域においては、脳血管関連が48.1%増収、消化器は18.9%増収\*1となりました。一方、安定事業のリズムデバイスも、1.2%減収となりました。

販売費及び一般管理費は、中長期的な成長投資として人件費や研究開発費等が増加しており、前年同期比684百万円の増加となりました。このコスト増を売上総利益の増加分でカバーするに至らなかったため、営業利益は前年同期比82百万円減少し、営業利益率は22.1%となりました。今回の利益減少は、主に将来の収益基盤を構築するための戦略的な成長投資を継続したことによるものです。

なお、為替相場の変動が当社の業績に与える影響は限定的であると認識しています。これは当社の商品仕入の約75%が円建てであることに加え、売上原価の計算に移動平均法を適用しているためです。これらの構造により、一時的に調達コストが上昇した場合でも、その影響は長期間にわたって平準化されます。

\*1 終了事業のコロナリー・インターベンションを含む。これを除くベースでは前年同期比27.6%増収

## (業績について)

当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)		増減	増減率 (%)
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)		
① 売上高	42,811	100.0	44,405	100.0	1,593	3.7
② 売上総利益	25,910	60.5	26,512	59.7	602	2.3
③ 営業利益	9,906	23.1	9,824	22.1	△82	△0.8
④ 経常利益	9,944	23.2	9,608	21.6	△336	△3.4
⑤ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,071	16.5	6,821	15.4	△249	△3.5

## ① 売上高

売上高は44,405百万円（前年同期比+3.7%）となりました。詳細は後段の「品目別売上高」に記載しています。

## ② 売上総利益

売上総利益は26,512百万円（前年同期比+2.3%）となりました。2024年6月に保険償還価格が改定されたことで販売単価下落の影響が前年同期比で2か月分ありましたが、中核事業および成長事業における販売数量の増加でその影響をカバーしました。

売上総利益率は59.7%（前年同期比△0.8pt）となりました。上記の販売単価の下落に加え、製品ミックスの悪化が影響しました。なお、自社製品比率は55.5%（前年同期比△2.1pt）となりました。

## ③ 営業利益

営業利益は9,824百万円（前年同期比△0.8%）、営業利益率は22.1%（前年同期比△1.0pt）となりました。

販売費及び一般管理費は、684百万円増加しました。主な増減要因は以下のとおりです。

（増加）

- ・PFAシステムの開発等に係る研究開発費の増加
- ・営業活動量の増加に伴う販売関連費の増加
- ・給与水準の引上げによる人件費の増加

（減少）

- ・貸倒債権を一部回収したことによる貸倒引当金戻入の計上（前期に取引先の手形取引停止処分により貸倒引当金繰入を計上）

## ④ 経常利益

経常利益は9,608百万円（前年同期比△3.4%）となりました。営業外収益として、受取利息や受取配当金などで170百万円を計上しました。営業外費用として、市場競争力が低下した一部製品（胆道鏡システムおよび内視鏡レーザーアブレーションカテーテル）の取扱い終了に伴う棚卸資産評価損等で387百万円を計上しました。

## ⑤ 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は6,821百万円（前年同期比△3.5%）となりました。特別損失として、本社移転に関連する費用等で196百万円を計上しました。また、法人税等の負担率は27.7%（前年同期比△1.1pt）となりました。

（品目別売上高）

（単位：百万円）

区分	前第3四半期連結累計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）	増減	増減率 （%）
リズムデバイス	10,119	9,995	△123	△1.2
EP/アブレーション	21,352	21,904	552	2.6
心血管関連	8,995	9,341	345	3.8
脳血管関連	1,291	1,913	621	48.1
消化器	1,051	1,250	198	18.9
合計	42,811	44,405	1,593	3.7

※各品目区分に分類される主たる商品は以下のとおりです。

リズムデバイス	心臓ペースメーカ、T-ICD（経静脈植込み型除細動器）、S-ICD（完全皮下植込み型除細動器）、CRT-P（両心室ペースメーカ）、CRT-D（除細動機能付き両心室ペースメーカ）、AED（自動体外式除細動器）、リードマネジメントデバイス
EP/アブレーション	EP（電気生理用）カテーテル、アブレーションカテーテル、心腔内除細動カテーテル、食道温モニタリングカテーテル、スティーラブルシース、大腿静脈用止血デバイス
心血管関連	人工血管、Frozen Elephant Trunk、ステントグラフト、心房中隔欠損閉鎖器具
脳血管関連	塞栓用コイル、血栓吸引カテーテル、マイクロカテーテル、ステントリトリバー
消化器	胆管チューブステント、胆管拡張バルーン、造影カニューラ、ダブルルーメンダイレータ、内視鏡ガイドワイヤー、大腸用ステント、胃・十二指腸用ステント、肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針

① リズムデバイス

リズムデバイスの売上高は、9,995百万円（前年同期比△1.2%）となりました。ペースメーカーは、他社のリードスペースメーカーのシェア拡大の影響を受け、低調に推移しました。一方、コア製品のS-ICDは、他社の新製品の影響を若干受けつつも予防的植込みの普及に伴う新規市場拡大を背景に、堅調に推移しました。また、2025年5月より販売を開始したフィリップス社のリードマネジメントデバイスも寄与しました。

② EP/アブレーション

EP/アブレーションの売上高は、21,904百万円（前年同期比+2.6%）となりました。心房細動のアブレーション症例数が前年同期比10%程度増加した（当社推定）ことで、心腔内除細動カテーテルの販売数量が引き続き増加しました。また、大腿静脈用止血デバイスは、大規模施設から中規模施設への販路拡大に加え、当第3四半期からのサイズ拡充も寄与し、売上高は前年同期比77.9%増と大幅に伸長しました。一方、他社が推進している心房細動の新しい治療法であるPFAの浸透を受け、食道温モニタリングカテーテルを含む一部のEPカテーテルは低調に推移しました。

③ 心血管関連

心血管関連の売上高は、9,341百万円（前年同期比+3.8%）となりました。コア製品のFrozen Elephant Trunkは、製品を使った手技トレーニング企画等を継続した結果、高い市場シェアを維持しました。また、第2四半期に上市したTAVI用センサー付きガイドワイヤーやHeartseed社向けの再生医療等製品の投与カテーテルシステムも増収に寄与しました。

④ 脳血管関連

脳血管関連の売上高は、1,913百万円（前年同期比+48.1%）となりました。血栓吸引カテーテルは、新たに導入した遠位血管向けのモデルが販売をけん引したほか、製品特性を訴求するマーケティング施策による差別化が奏効し、市場プレゼンスを大きく拡大しました。また、前期に発売したステントリトリバーも順調に採用施設数を拡大しました。塞栓用コイルについても、脳血管・腹部向けの需要が堅調だったことに加え、放射線科への新規販路拡大も寄与し、好調に推移しました。

⑤ 消化器

消化器の売上高は1,250百万円（前年同期比+18.9%）となりました。2024年3月期で終了したコロナリー・インターベンション事業を除いたベースでの売上高は1,210百万円（前年同期比+27.6%）となりました。胆管チューブステントは、第1四半期に導入した新モデルの臨床評価が良く、販売は想定を上回るペースで推移しました。その他、内視鏡ガイドワイヤーや胆管拡張バルーンなどの製品も、堅調に推移しました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(四半期連結貸借対照表に関する分析)

① 資産

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末に比べ315百万円増加し、44,652百万円となりました。これは主として、配当金の支払い、法人税等の支払いにより現金及び預金が2,370百万円減少した一方で、棚卸資産が1,325百万円、受取手形及び売掛金が1,285百万円、それぞれ増加したことによるものです。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ619百万円増加し、31,405百万円となりました。これは主として、投資その他の資産のうちその他に含まれている長期前払費用が373百万円減少した一方で、有形固定資産が423百万円、投資有価証券が703百万円増加したことによるものです。

以上の結果、資産合計は前連結会計年度末から935百万円増加し、76,058百万円となりました。

② 負債

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては、流動負債が前連結会計年度末に比べ2,187百万円減少し、12,147百万円となりました。これは主として、賞与引当金が858百万円、未払法人税等が720百万円、ならびに支払手形及び買掛金が442百万円減少したことによるものです。

また、固定負債は前連結会計年度末に比べ159百万円減少し、715百万円となりました。これは主として、役員株式報酬引当金が83百万円、その他に含まれているリース負債が43百万円、それぞれ減少したことによるものです。

以上の結果、負債合計は前連結会計年度末から2,346百万円減少し、12,862百万円となりました。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ3,281百万円増加し、63,196百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益を6,821百万円計上した一方で、剰余金の配当を3,722百万円実施したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の通期連結業績予想(2025年5月7日公表)については、期初の予想を据え置くことといたしました。当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高から営業利益までは、おおむね期初予想どおり進捗しています。一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益については、一過性の営業外費用や本社移転に関連する特別損失を計上したことで、期初予想をやや下回りました。しかしながら、第4四半期連結会計期間においても販売面での堅調な推移が引き続き見込まれ、販売費及び一般管理費も計画どおりに推移する見込みであることから、通期ではおおむね期初予想に沿った結果となることを想定しています。今後、業績予想の修正が必要になった場合には、速やかに開示します。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,014	8,644
受取手形及び売掛金	13,830	15,115
棚卸資産	17,961	19,287
その他	1,529	1,605
流動資産合計	44,336	44,652
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,995	6,747
その他（純額）	6,289	6,961
有形固定資産合計	13,285	13,709
無形固定資産	1,910	1,630
投資その他の資産		
投資有価証券	7,374	8,078
長期貸付金	2,691	2,760
退職給付に係る資産	405	339
その他	6,871	6,438
貸倒引当金	△1,753	△1,550
投資その他の資産合計	15,590	16,065
固定資産合計	30,786	31,405
資産合計	75,123	76,058
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,358	3,916
短期借入金	3,500	3,200
1年内返済予定の長期借入金	120	30
未払金	947	1,222
未払法人税等	1,703	982
賞与引当金	1,946	1,087
役員賞与引当金	79	22
その他	1,678	1,684
流動負債合計	14,334	12,147
固定負債		
役員株式報酬引当金	164	81
その他	709	633
固定負債合計	874	715
負債合計	15,208	12,862
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,115	2,115
資本剰余金	8,888	4,418
利益剰余金	53,455	56,554
自己株式	△5,784	△1,208
株主資本合計	58,675	61,880
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△32	160
為替換算調整勘定	788	770
退職給付に係る調整累計額	483	354
その他の包括利益累計額合計	1,239	1,286
新株予約権	—	29
純資産合計	59,914	63,196
負債純資産合計	75,123	76,058



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	42,811	44,405
売上原価	16,901	17,892
売上総利益	25,910	26,512
販売費及び一般管理費	16,003	16,687
営業利益	9,906	9,824
営業外収益		
受取利息	192	119
受取配当金	34	29
為替差益	21	12
その他	13	9
営業外収益合計	262	170
営業外費用		
支払利息	27	28
投資有価証券評価損	69	13
貸倒引当金繰入額	15	15
支払手数料	68	12
棚卸資産評価損	—	294
その他	43	23
営業外費用合計	224	387
経常利益	9,944	9,608
特別利益		
固定資産売却益	8	0
投資有価証券売却益	20	18
特別利益合計	28	18
特別損失		
固定資産売却損	3	16
固定資産除却損	32	70
投資有価証券売却損	—	0
本社移転関連費用	—	108
特別損失合計	36	196
税金等調整前四半期純利益	9,937	9,430
法人税、住民税及び事業税	2,540	2,411
法人税等調整額	325	197
法人税等合計	2,866	2,608
四半期純利益	7,071	6,821
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,071	6,821

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	7,071	6,821
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	196	193
為替換算調整勘定	391	△17
退職給付に係る調整額	△26	△128
その他の包括利益合計	561	46
四半期包括利益	7,632	6,868
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,632	6,868

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の消却)

当社は、2025年5月7日開催の取締役会決議に基づき、2025年5月16日付けで4,458,470株の自社株式の消却を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金および自己株式がそれぞれ4,469百万円減少しました。

なお、当第3四半期連結会計期間末において、資本剰余金が4,418百万円、自己株式が1,208百万円となっています。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	1,316百万円	1,232百万円

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

当社および連結子会社の営む事業は医療用機器の製造および販売業であり、また、主な販売先は国内に所在しています。当社および連結子会社の構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定および業績を評価するために定期的に検討を行う対象として報告セグメントとすべきものはありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

当社および連結子会社の営む事業は医療用機器の製造および販売業であり、また、主な販売先は国内に所在しています。当社および連結子会社の構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定および業績を評価するために定期的に検討を行う対象として報告セグメントとすべきものはありません。

## 3. その他

生産、受注及び販売の状況

## ① 生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績を商品区分別に示すと次のとおりであり、著しい変動はありません。

(単位：百万円)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)	増減率 (%)
リズムデバイス	14	7	△49.2
EP/アブレーション	5,132	4,901	△4.5
心血管関連	1,210	1,263	4.4
消化器	594	567	△4.6
合計	6,951	6,739	△3.1

(注) 1. 金額は製造原価によっています。

2. 「脳血管関連」の生産実績は前期、当期ともに発生していないため表示を省略しています。

## ② 受注実績

当社グループの事業形態は、原則として受注残高が発生しないため、記載を省略しています。

## ③ 販売実績

販売実績につきましては、添付資料2ページ「1. 経営成績等の概況(1) 当四半期の経営成績の概況」をご覧ください。